

あさの ちゃんねる

医療法人社団 浅ノ川

浅ノ川総合病院 広報誌 2014 年新春号 (年 4 回発行)

今年もわたしたちが
皆様の元気のお手伝いをします。



新年の挨拶

理事長 小市 勝之

明けましておめでとうございます。

私たち浅ノ川病院グループは民間病院として、少しでも多くの方に来ていただき、満足していただくことが究極の目標です。例えば、昨年の患者満足度調査で、食事のことについて貴重なご意見をいただきました。入院患者の方が百人いれば百通りの思いがあります。これらを真摯に受け止めることが大切です。しかし、それだけで良いわけではありません。私たちは病院の食事を通して、どのように安全安心を提供し、いかに健康に配慮しているかを皆様に伝えなければいけません。食事に込められた意味や私たちの思いを理解していただくことが大切だと思います。同じことがすべての診療行為や、

当院の提供できるサービス全般についてもいえます。実際に私たちの病院が出来ることで、皆様に知ってもらいたいことがたくさんあります。それをうまく伝えていけたらと思います。

また、今後高齢化社会が進む中で重要だと考えていることがあります。今までは病気を治す医療が中心でしたが、これからは病気を抱えて生きる医療、そして患者様を支える医療が大切になってくるということです。年齢を重ねるに伴い、完全に病気を治癒することが困難な状況が増えてきます。これから急性期でしっかり治療することが一番大切なことになりませんが、その後は必要に応じて亜急性期や回復期の治療、リハビリ、そして療養治療を継続することになります。そして、退院後は私どもの病院の専門外来で定期的に診させていただきます。また、患者様の利便性を最大限に考え、在宅医療を含め開業医の先生方と協力して診療にあたらせていただきます。あるいは退院後すぐに、自宅療養が不安な方には、老人施設や介護施設などへの紹介をさせていただきます。いろいろな選択肢がありますが、生涯にわたる対応を責任もってさせていただきますので、安心して治療を受けていただきたいと思います。

これからも地域と共に成長し、皆様のお役に立てる病院になりたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



病院の理念

「皆様の信頼を得る、思いやりのある医療を提供します。」

病院の方針

1. 新しい知識と技術を身に付け、質の高い医療を提供します。
2. 患者の皆様によりやさしい、活気にあふれる病院を目指します。
3. インフォームドコンセント(説明と同意)に基づいた治療を行います。
4. 地域の医療機関との連携を深め、地域医療の充実に貢献します。
5. 安全性を考え、責任の持てる医療を提供します。

あなたの意思で救える命があります

腎臓内科 部長 中澤 哲也

当院の腎臓内科はすべての医師が検尿異常から、腎不全・腎移植管理のトレーニングを受けている全国でも数少ない施設です。現在、200名近くの透析治療を受けられる患者様がおり、県下最大級の透析施設です。今回は慢性腎不全治療のもうひとつの軸の腎臓移植や臓器移植一般についてお話したいと思います。

腎機能が低下し、正常の15%以下になると、腎臓の機能を代償する治療が必要となります。その方法には、水電解質・老廃物を除去する方法である「透析療法」と腎臓の機能をほぼすべて肩代わりする「腎臓移植」の2通りがあります。腎臓は他の臓器に比べ、人工臓器（透析療法）が発達しているため、他の臓器のように、臓器不全が死に直結することはありません。それでも移植のほうが生活の質を高く保てるため、移植を希望される患者様は多数いらっしゃいます。しかし、^{けんじん いしよく}※献腎移植を希望し、登録されている方は約12,000人いますが、実際に行われた献腎移植は全国で130例(2013年)でした。また、腎臓以外の臓器では、臓器不全の治療に移植でしか助からない命があります。



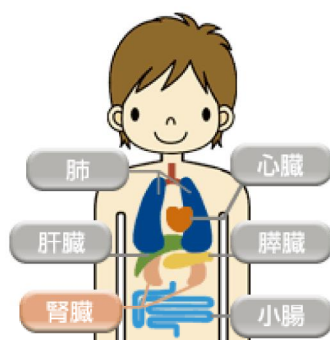
移植でしか助からない命があります。
自分が最期を迎えた時(脳死あるいは心臓が停止した死後)に、どこかの誰かを救うことができます。それが臓器提供「いのちの贈り物」です。

※献腎移植…
亡くなられた方から腎臓を提供して
いただく移植のこと。

人の身体機能は日常生活の中で低下したり、事故や病気で見失うことがあります。機能の低下を補うものとして、身近にはメガネや入れ歯などがありますが、臓器が一旦その機能を失うと、薬剤や機械で代替することは大変難しくなります。臓器移植とは、他の方の健康な心臓、肺、肝臓、腎臓などの臓器を移植して、機能を回復する医療です。健康な家族からの部分提供による生体移植(肝臓・腎臓など)と亡くなられた方からの臓器提供による移植があります。医療技術や医薬品だけではなく、皆さん一人ひとりの善意による臓器の提供がなければ成り立たない医療です。

臓器提供は、脳死後あるいは心臓が停止した死後にできます。2010年7月17日に改正臓器移植法が全面施行され、生前に書面で臓器を提供する意思を表示している場合に加え、ご本人の臓器提供の意思が不明な場合も、ご家族の承諾があれば、臓器提供できるようになりました。ご家族の承諾があれば臓器提供が可能となったことで、それまでの13年間に脳死後の臓器提供者は86名だったのに対し、2010年7月17日から2012年6月30日までの約2年の間に92名の方が脳死後に臓器を提供されました。そのうち約8割が家族の承諾による提供です。

自分が最期を迎えたときに、あなたの意思で救える命があります。自分の意思を尊重するためにも、臓器移植について考え、家族と話し合い、「提供する」「提供しない」どちらかの意思を表示しておくことが大切です。



※1、2、3、いずれかの欄を○で囲んでください。

- 私は、脳死後又は心臓が停止した死後に同意の意思表示をし、移植の際に臓器を提供します。
- 私は、心臓が停止した死後に同意の意思表示をし、移植の際に臓器を提供します。
- 私は、同意の意思表示をしません。

【1又は2を拒否した方に対しては、臓器提供が認められず、おついでください。】
【心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・膵臓】

(登録欄)

署名年月日： 年 月 日

本人署名(白線)： _____

家族署名(白線)： _____



運転免許証や健康保険証の裏面に臓器提供の意思を表示できるようになっています

連携登録医のご紹介

今回は、平成17年4月に開院された『いよベクリニック』をご紹介します。



〔院長 伊與部 尊和 先生〕

当院は、平成17年4月に開業して今年4月に10年目を迎えることになりました。

1. 地域のかかりつけ医として病気の予防と治療に努めます。
2. 受診が困難な方には往診や訪問診療を行います。
3. 地域の中核病院との病診連携に努めます。
4. 癌の早期発見に努めます。

この4つが開業時以来の当院の診療理念です。

大学を卒業後約20年余りの間、主に外科や胃腸疾患・乳腺疾患、内科、救急医療等と幅広く診療に携わってきました。また、平成6年には浅ノ川総合病院に在職させて頂き、諸先生方やスタッフの皆様と一緒に楽しく仕事をしたことを記憶しております。

開業後は一般内科疾患と自分の専門分野である消化器癌や、乳癌の早期発見にも力を入れております。そして、職員全員で院内の温かい雰囲気大切にしながら診療を行っております。

現在、地域医療連携としてがん治療連携バスや、在宅患者様の緊急時入院受け入れを浅ノ川総合病院はじめ数病院に協力をお願いしております。これからも地域医療の一翼を担える様に精進していきたいと考えておりますので、宜しくお願い致します。



待合室風景

連携登録医

地域の医療機関と浅ノ川総合病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の提携を目指して新たに開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

昭和 61 年 3 月	金沢大学医学部医学科 卒業
4 月	金沢大学医学部附属病院第二外科 (現 消化器・内分泌・移植再生外科) 勤務
昭和 62 年 4 月	恵寿総合病院 胃腸科 勤務
昭和 63 年 4 月	国立金沢病院 (現 金沢医療センター) 外科 勤務
平成 元年 4 月	国立山中病院 外科 勤務
平成 3 年 5 月	金沢大学医学部附属病院 救急部助手
平成 3 年 8 月	プリンセス・アレキサンドラ病院 (オーストラリア) 肝移植手術のため海外研修
平成 5 年 4 月	高岡市民病院 外科医長
平成 5 年12月	金沢大学医学部 医学博士号 取得
平成 6 年 4 月	浅ノ川総合病院 外科医長
平成 7 年 5 月	新村病院 副院長 (外科、内科、整形外科を担当)
平成 12 年 4 月	金沢社会保険病院 消化器外科部長
平成 15 年 6 月	癌研究会附属病院 乳腺外科 (霞富士雄部長) に国内留学
平成 16 年 4 月	金沢社会保険病院 外科部長
平成 17 年 4 月	いよベクリニック 開設

<所属学会>

日本外科学会専門医 日本乳癌学会認定医
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会読影認定医
日本内科学会認定医 日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医 日本消化器病学会専門医
日本医師会認定産業医 等

いよベクリニック

院 長：伊與部 尊和

診 療 科：外科（一般外科、乳腺科）、胃腸科
(消化器科、肛門科)、内科

得意分野：消化器疾患、乳腺・甲状腺疾患、
内科一般

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:30～18:00	○	○	/	○	○	/	/

休診日：水曜午後・土曜午後・日曜・祝日

住 所：〒920-0811 石川県金沢市小坂町南 675

電 話：076-251-2222

駐車場：あり 15 台



部門紹介 リハビリテーション部

リハビリテーションチーム全体で「自分らしい生活」ができるように支援します

リハビリテーションとは？

リハビリテーション(rehabilitation)とは、ラテン語で「re-(再び)、habilis(人間にふさわしい)」の状態にするという意味です。単に手足の機能回復などの部分的意味にとどまるものではなく、人間全体としての「人間らしく生きる権利の回復」「全人間的復権」を意味するものです。

病気や事故のため身体、精神、言語等の障害を負った方々が、再び住み慣れた地域で安心していきいきと生活していくために、失われた機能の回復を図りながら、元からある資源(身体的能力、福祉機器、環境、制度など)を有効に活用できるように治療・援助を行います。

リハビリテーションセンターのご紹介

当院リハビリテーションセンターは、東館1階に受付、診察室、理学療法室があり、東館2階に作業療法室及び言語療法室があります。

スタッフは医師3名、理学療法士30名、作業療法士16名、言語聴覚士6名、柔道整復師1名、助手1名の総勢57名の大所帯となりました。



職種と役割

理学療法士 (PT) 主に運動障害の機能改善を図るとともに、起き上がり、立ち上がり動作や歩行などの基本的動作能力の回復に取り組みます。

作業療法士 (OT) 主に食事や着替え、排泄など日常生活動作の再獲得を目的とし、いろいろな活動を用いて治療を行います。また、住宅改修のアドバイスも行います。

言語聴覚士 (ST) 主にコミュニケーション能力の回復、飲み込みの障害（嚥下障害）の改善を目的として行います。

医師・看護師・介護職員・薬剤師・栄養士・医療ソーシャルワーカーと密に連携を取りながら業務にあたっています。



当院の特色

急性期から回復期、生活期まで切れ目のないリハビリテーションを実施しています。その対象は、いわゆる脳卒中等の脳血管疾患、骨折等の骨関節疾患、肺炎などで寝たきりの期間が長くなる方（廃用症候群）、腫瘍、呼吸器疾患、認知症、糖尿病の方など様々です。幅広い方々が対象となるため、より効果的なリハビリテーション提供のために、病期別にチームを組んで業務を行っています。

病期別リハビリテーション

	急性期 発症～2週間	回復期 2週間～3ヶ月	維持期（生活期） 3～6ヶ月以降
病状	積極的な治療を要する時期であると同時に、安静に伴う問題も発生しやすい時期	病状が落ち着き、積極的に活動が行える時期	自宅に退院したり、病院や施設で療養しながら、その後の生活を営む時期
リハビリ	 二次的な障害を予防するために、できるだけ早期からのリハビリ 内 容 早期離床、基本動作練習、筋力強化運動、摂食嚥下指導 など	 身体機能改善、生活復帰に向けた積極的なリハビリ 内 容 身体機能改善運動、歩行練習、日常生活動作指導、環境調整、介護指導 など	 身体・生活動作の改善を図るとともに活動範囲の拡大や趣味など、生活の質を高めていくリハビリ 内 容 身体機能改善運動、日常生活動作指導、介助指導、環境調整、趣味への参加 など
当院	急性期病棟	回復期リハビリテーション病棟 亜急性期病棟	自 宅 → 訪問リハビリ 外来リハビリ 療養病棟 → 定期フォロー

急性期は多職種と連携を図り、リスク管理を徹底して、発症からできる限り早い段階でリハビリテーションを開始しています。

回復期には亜急性期病棟、回復期リハビリテーション病棟を有し、**回復期リハビリテーション病棟においては、日曜・祝日を含め、365日リハビリテーションを行っています。**

維持期（生活期）における訪問リハビリテーションでは、平成25年5月に『あさのがわ訪問リハビリ・訪問看護ステーション』として、東館1階に事業所を開設いたしました。当院より、車で20分程度の地域にお住まいの方のご自宅にリハビリテーション療法士が訪問して、リハビリテーションを実施しています。

スタッフ一同、患者様のニーズに適切に対応し安心と満足の得られるリハビリテーションを提供し続けるため日々精進していきます！！

※リハビリテーションを受けるには、医師の指示が必要です。主治医の先生にご相談ください。

糖尿病看護外来からのお知らせ



日本糖尿病療養指導士(CDEJ)の高坂看護師長に聞きました。

Q1：糖尿病看護外来について教えてください

A：糖尿病患者さんの数は年々増え続けており、当院でも多くの糖尿病患者さんが外来通院されています。糖尿病は自己管理が大切な病気です。患者さん自身が正しい知識を持って日常生活を送ることが、糖尿病のコントロールを良好にして、合併症の予防へと繋がっていきます。糖尿病看護外来では、患者さんの普段の生活についてのお話をお聞きしながら、日本糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師と一緒に療養生活について考えるお手伝いをしています。また、必要な方へは足の合併症予防のためのフットケアを行っています。

Q2：「日本糖尿病療養指導士(CDEJ)」について教えてください

A：日本糖尿病療養指導士(CDEJ)は糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートです。日本糖尿病療養指導士(CDEJ)の資格は、日本糖尿病療養指導士認定機構の研修を受け、試験に合格した看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士に与えられます。当院では、看護師8名、薬剤師2名、管理栄養士2名・臨床検査技師2名の日本糖尿病療養指導士(CDEJ)が活動をしています。

Q3：どのような活動をしていますか？

A：外来通院中の糖尿病患者さんと一緒に、インスリン注射・自己血糖測定の方法を確認したり、療養生活上の相談を受け日常生活での支援を行っています。また、足にトラブルを抱えている糖尿病患者さんや視力障害のため自分で足の爪切りをすることが困難な患者さんのフットケアも行っています。糖尿病外来は第2・4・5週水曜日、第2・4週金曜日の午後に予約制で行っています。医師の指示で実施していますので、診察時に医師にご相談ください。

院内では医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・理学療法士の他職種間で連携をとりながら、診療および糖尿病教室などの開催を行っています。

糖尿病は一生付き合っていかなければならない病気です。症状がない時に早期発見・早期治療に取り組む為に、治療上の意思決定の支援も行っています。治療に伴う気持ちのつらさや将来への不安、治療費に関する相談もありますが、糖尿病とともに歩む人生が少しでも快適な生活になりますように、患者さんと一緒に考えていますのでお気軽にご相談ください。



ご質問やご予約については内科外来にお問い合わせください。

新入職員紹介



よろしく
お願いします！

各部に配属された
フレッシュなメンバーを
紹介します！



職種
理学療法士

配属先
リハビリテーション部

ひがしなか むねひろ
東中 宗大

Q1：ご自身の長所を教えてください。
よく笑う、よくしゃべる

Q2：座右の銘を教えてください。
自厳他寛

Q3：今後の抱負を教えてください。
どんな患者様とも笑顔で快くリハビリを受けてもらえるように頑張っていきたいと思っています



職種
理学療法士

配属先
リハビリテーション部

まえかわ たかひろ
前川 貴裕

Q1：ご自身の長所を教えてください。
あふれる元気とまぶしい笑顔です

Q2：座右の銘を教えてください。
日進月歩

Q3：今後の抱負を教えてください。
患者様に笑顔で家に帰っていただけるよう全力でリハビリいたします



職種
臨床検査技師

配属先
検査部

あかくら みほ
赤倉 美穂

Q1：ご自身の長所を教えてください。
がまん強く、明るいところ

Q2：座右の銘を教えてください。
人事を尽くして天命を待つ

Q3：今後の抱負を教えてください。
患者様、医師、全ての人から信頼される検査技師になれるよう頑張ります

行事レポート

「平成 25 年度救急症例検討会」開催

当院では救急隊と病院の連携を強化し、救急医療の向上を図るため、救急症例検討会を定期的に行っています。平成25年12月6日（金）当院で「平成25年度救急症例検討会」が開催され、石川県と富山県の救急隊員、当院医師、看護師他約100名が出席しました。

特別講演では、金沢大学附属病院 脳神経外科 内山尚之先生より、脳卒中の種類や症状の説明から、血栓溶解療法（t-PA 治療）の最新の話、カテーテル治療についての講演をされました。

症例検討会では、当院に救急搬送された3症例「左尿管結石、右腎結石」「クモ膜下出血」「外傷性脾破裂」について、搬送時の注意点や状況判断、当院での治療や経過など、救急隊員と当院医師が意見交換を行いました。

今後も地域の救急隊と「顔の見える連携」を推進し、よりよい救急医療を地域に提供できるよう努めていきます。



「出前講演」開催

平成25年12月14日（土）森本小学校にて保護者を対象とした出前講演を開催しました。

当院形成外科部長の池田和隆医師が「スポーツのけがと予防」と題し、けがの種類からけがの治る仕組み、応急処置の方法や、スポーツをする子供の教育に関する親の心得などが話されました。講演後は子供のけがや受診について質問、意見交換を行いました。

当院では無料で県内の公民館、企業、学校などに講師が出向き、健康に関する「出前講演」を行っています。演題一覧、お問い合わせは当院ホームページを参照していただくか、地域医療連携室までご連絡ください。



「第1回石川県てんかん医療研究会教育セミナー」開催

平成25年12月15日（日）金沢都ホテルにて「第1回石川県てんかん医療研究会教育セミナー」を開催しました。

当院は北陸のてんかん専門医3名のうち2名が在籍し、外科治療を含めたてんかんの専門医療を提供している唯一の医療機関です。今回、北陸のてんかん医療の充実と医師の育成を目的として、石川県てんかん医療研究会事務局である当院が平成25年度石川県高度専門医療人材養成支援事業の支援を受け、開催にいたしました。

当院のてんかん・機能外科部長の川村哲朗医師が会長を務め、地域医療に携わる医師約80名が参加しました。セミナーでは当院医師と静岡てんかん・神経医療センターの医師から、てんかんの概念、症状、画像診断、神経生理診断、薬物治療、外科治療、ケアなどについて講演しました。

平成26年度の開催も決定しており、今後も当院はてんかん医療の充実と臨床研修の推進に努めていきます。

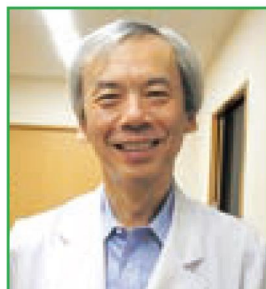


超音波センター開設のお知らせ

／ 昨年11月にオープンしました ／



乳腺の超音波検査は女性が担当しています。



超音波センター長
荒木 一郎 (統括副病院長)
※兼 健診センター長

日本超音波医学会専門医
日本消化器病学会専門医

院内の超音波検査を一元化し、効率よく施行することで、患者様の待ち時間を軽減し、より多くの患者様を検査できるようになりました。荒木センター長の下、臨床検査技師と診療放射線技師が検査を担当しております。

行事レポート

リハビリテーション部研修会



東京湾岸リハビリテーション病院
近藤 国嗣
病院長



東京湾岸リハビリテーション病院
井上 靖悟
理学療法士

今年度、リハビリテーション部では、他病院から講師を招いての研修会を積極的に行い、知識を広げ、深める取り組みをしています。

今回、12月14日、天候が危ぶまれる中、千葉県にある東京湾岸リハビリテーション病院より2名の講師をお招きしました。

近藤国嗣病院長からは『東京湾岸リハビリテーション病院における回復期リハビリテーションの実際』、井上靖悟理学療法士からは『東京湾岸リハビリテーション病院の運営システムとその取り組みの実際』というテーマで講演していただきました。

院内からリハビリスタッフ約50名をはじめ、看護師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士らが参加し、また金沢脳神経外科病院からも回復期

リハビリ病棟を担う看護師、リハビリスタッフの参加がありました。参加者総勢70名が近藤病院長の熱弁に耳を傾け、井上理学療法士とは活発な質疑応答を行いました。

『日本で実現できる最良のリハビリテーション医療。それが私たちの目標です』と理念を掲げる東京湾岸リハビリテーション病院の取り組みは、学ぶべき点が多々ありました。

今後もみなさまに、よりよいリハビリテーションが提供できるよう、努力したいと思います。



編集後記



問い合わせ先

明けましておめでとうございます。今年もあさのちゃん宛ての年賀状は届きませんでした。残念(>_<)。ちなみに「あさのちゃん」とインターネットで検索すると、私にたどり着くまで少し時間がかかります。認知度をあげることは、まだまだ難しいですね。

約1年前になりますが、テレビ等で紹介されたこの言葉を知っていますか？『会話をしなさい。グーグルで検索をしなさいで思考しなさい。』ある国の母親が、我が子にスマートフォンを与える時の条件の一つです。分からないことがあった時、考える前にすぐ検索してしまう今こそ、皆様の間で元氣な私「あさのちゃん」が会話にでてくるよう、今年もがんばります！



広報誌に関する質問・投稿・ご意見などは広報室へお願いいたします。

TEL 076-252-2101 (代) メールアドレス: kouhou-1204@asanogawa-gh.or.jp